

# Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.28 2012年1月号

**ザンビア****SMAG資金調達支援開始**

「安全なお産支援グループ (SMAG)」の活動環境を整えるため、収入向上のための支援を開始しました。

☞p.2-3

**ザンビア****新校舎で授業開始!**

ンコンジェ・コミュニティスクールでは、新校舎での授業が始まりました。

☞p.4

**ザンビア****農村開発ローン**

養鶏ビジネスを始めたグループは鶏小屋を完成させ、返済も順調です。

☞p.5

**事務局**

ゆず狩りに初めて参加した新人職員が「つながり」について考えました。昨年からはまった公募合宿についてもご報告します。

☞p.6-7

## スローライフの勧め

### TICO 代表 吉田 修

最近、薪を燃やすクッキングストーブに凝っている。湯を沸かす、煮炊きする、パンやピザを焼く、ロースト何々、焼き芋、何でもできる。天板が熱くなるのは、意外と早く、薪に火をつけてから20分ほどで湯が沸く。オープンが200度になるには40~50分かかかるが、ストーブとしても非常に優れているので、暖房として火をつけておけば、たまに薪をくべておくとちょうどよく燃えて、しかもいつでも調理できる状態が保てる。(写真下)

薪ストーブを使うためには、広葉樹を伐って2年ほど乾燥させておかねばならない。



杉など針葉樹でもいいが、パツと燃えて長持ちしない。伐採に適するまで成長するのにクヌギやコナラで15年ほど必要であるが、切り株から新芽が伸びて手入れすればまた15年で再生する。まさに再生可能エネルギーなのだ。今使っている薪は、数年前に伐っておいたものである。日本人はずっとこうして里山を管理してきた。

どっしりと重く噛み応えのある黒いライ麦パンが好きである。自らクッキングストーブで焼きたいと思い、11月に「ゴンベイ」と言う種まき機を押して小麦とライ麦の種を蒔く。これが足腰のトレーニングには最適である。5月の終わりに実りを迎えた麦畑はまた美しい。しかし、麦畑に付きものだったヒバリを最近は見かけない。秋の田んぼの赤トンボもこの数年で激減している。麦刈りをして、十分に乾燥させ電動石臼の製粉機で粉にする。やっとパンを焼く準備ができたわけだ。こうして焼いたパンは「うまい」どころか『格別』だ。

クッキングストーブの前に座り、炎を眺めながら、いい音楽を聴きつつフェアトレードコーヒーを飲む。来シーズンは、トマトとズッキーニをたくさん作ろうとか、果物の選定をしっかりとやろうとか思いながら。なんと贅沢で極上のスローな時間であろうか。

しかもこのようなスローライフ、LOHAS(ロハス)が、森林の再生、農業の復興、地域の活性化、生物多様性の確保、ひいては脱石油、脱原発、地球温暖化対策にもつながるのである。その上オイルショック、食糧危機、大規模災害、大停電にも負けない、安全な暮らし方でもある。

エコビレッジ「高越(こうつ) LOHAS村」第1弾として、有機農業をベースとするスローライフが体験できる宿泊施設「ドリームハウス」(普通の民家であるが)の整備に着手する。今後の展開にご期待あれ!



よしだ・おさむ: 自称兼業農家(外科医) 徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。写真は文中の「ゴンベイ」で種まきをする吉田。

# 安全なお産支援グループのための IGA支援開始

チボンボ郡 地域住民が支える安全な妊娠/出産事業



※IGA…収入創出活動：Income Generating Activity

会計ワークショップ（講義）の様子

## 酒井浩子（保健医療専門家）

### IGA=収入創出活動

IGA（アイ・ジー・エー）とは、収入を生み出す活動のこと。ザンビアの他の保健ボランティア同様、『安全なお産支援グループ（以下、SMAG：Safe Motherhood Action Group、スマッグ）』メンバーも完全なボランティアです。

妊産婦さんへの家庭訪問、啓発劇や乳幼児健診の場を通じた集団健康教育、毎月のレポート提出。各人がそれぞれ農作業など仕事もあり忙しい中、無報酬で地域の健康のためにSMAGとして妊産婦保健の向上に励んでいます。そして、SMAG自転車の修理費、自転車救急車の修理費、活動時のランチ代など、SMAGのためには自らの財布からの出費もあります。

しかし、メンバーのほとんどが農業で生計をたてている農民であり、時期によってはまとまった現金収入がほとんどなく、資金調達は困難です。活動をより持続可能なものとするために、そして彼らの活動へのモチベーション維持のために、IGA支援を通してSMAGのグループとしての活動環境を整えていくこととなりました。

### 何ができるか？

モノ作りをして売る、モノを買ってきて売る、有料のサービスを始めると、IGAと一口に言ってもいろいろなやり方があります。モ

ンボシでIGAを開始するにあたり、どんな方法がいいのか探るため、いろんな団体に話を伺いました。

首都ルサカを中心に様々な成功例を聞き、モンボシでもそれができたら！と心弾むこともありましたが、交通の便も悪く、ビジネスがやりにくい環境で、また限られた予算の中で、持続可能かつ気軽に始められるようなものはなかなか見つかりません。

### 彼らのノウハウを生かし、負担も少なく、シンプルで、確実な方法を！

そんな中、メンバーから「是非！」との声が上がったのが、大豆を栽培するための資金貸付け。名付けて『SOYAプロジェクト』。



会計ワークショップ（グループワーク）の様子

大豆栽培は彼らの得意分野。モンボシでのIGA第一歩は、大豆栽培のための資金貸付からスタートすることに決まりました。

### 会計ワークショップ

大豆栽培に関する知識は問題ありませんが、これまでローンを受けたことがないメンバーも多かったため、毎月の返済のための集金方法や会計管理について、これまでチペンビ地区の小規模農村開発ローン事業に携わってくれている農業大学の先生を呼んでワークショップを一日実施しました。この講義はIGAだけでなく、実際各家庭でも即実践にうつせる内容のため、メンバーは真剣そのもの。



▲ローンの貸し付けを受けた各SMAGの代表者たち

IGAについては、SMAGメンバーからどんどん意見やアイデアが出てきます。自主的に自分たちで鶏を集めてSMAGのIGAとして養鶏を始めたグループもあります。

今回の大豆栽培の資金返済がうまくいけば、また別のものを、そしてプロジェクト終了までには、ドナーがいなくても自分たちで資金をやりくりして、継続してできる方法を導入していきたいと話しています。

- 2010年10月から始まった、ザンビア・チボンボ郡モンボシにて安全な妊娠・出産のための環境づくりを目標としたプロジェクト。JICA（国際協力機構）から「草の根技術協力事業」として委託を受けています。

## 看護師の家（→）の完成まであと少し！ お産を待つ家（↓）の建設も着々と進行中！



滝川麻衣（業務調整員）



現在看護師が一人しかいないため毎日大忙しのモンボシのヘルスポストにもう一人看護師を呼ぶべく、建設を進めている看護師の家。電気の配線や水道の配管がほぼ終わり、完成まであと少しとなりました。

政府からモンボシのヘルスポストに看護師を配置してもらう手続きに入るため、お産を待つ家よりも先に看護師の家を完成させる必要があります。

少しでも早く新しい看護師に来てもらえるよう、12月中の完成を目指して現在急ピッチで建築作業が進められています。お産を待つ家も配管作業などを終え、看護師の家と並行して着々と建設が進行中です。

# 新しい校舎での授業開始！

黒田晶子（業務調整員）

## ンコンジェ・コミュニティースクール

公益社団法人セカンドハンドからご支援を頂き、村人達が建設を進めているンコンジェ・コミュニティースクール。まだまだ建築作業は続いているのですが、子ども達は一足早く新しい校舎で授業を始めました。

新しい教室には光がたっぷりと射し込み、明るい教室でクラス全員が行儀よく机に座って勉強しています。

校長のシアドゥンカ先生も、「新しい教室になって子ども達は勉強できることを本当に楽しんでます。」と満足顔。「以前の教室では自習の時間に先生が教室の外に出ると、勉強に集中できずに教室の外に出てしまう生徒が何人かいたのですが、今では生徒は自分たちで静かに勉強するようになりました。」



ンコンジェのお父さんお母さん達は、「ご支援下さった皆様に早く完成した学校を見せるんだ！」と、持ち前の結束力で残りの建築を進めています。

タンザニアの都市ムベヤに行くため、ザンビア側のタザラ鉄道始発駅ニュー・カピリ・ンポシから週に一度しか出ていない急行キリマンジャロに初めて乗車しました。

総距離1,003kmをほぼ1日かけて移動します。1等寝台（写真左）の料金は約2,100~2,300円。長旅中、足を伸ばせる寝台はとてありがたかったです。バーや食堂車もついており、ウェイターが注文をとりに来て食事を部屋まで届けてくれるサービスぶり！



バスよりも時間がかかる電車の旅ですが、線路沿いにいる子供たちに手を振りつつ車窓からの風景を楽しみ、偶然相部屋になった旅仲間とおしゃべりに興じたりして、のんびりリラックスできました。時間がある旅人には、ぜひおすすめしたい移動手段です。

※タザラ鉄道は、タンザニアのダル・エス・サラームと、ザンビアのカピリ・ンポシを結ぶ鉄道で、正式にはタンザニア・ザンビア鉄道。タンザン鉄道とも呼ばれる。全長は1,859km。

## タザラ鉄道の旅

滝川麻衣（業務調整員）



▲途中の停車駅の様子

# ザンビア / チペンビ小規模農村開発ローン

ミルルのお母さんたち、養鶏ビジネス頑張ってます！

黒田晶子（業務調整員）



新しく建ったばかりの鶏小屋の中では地鶏達が元気に走り回っています。鶏小屋で鶏を飼育すると、病気の早期発見・抑制ができるだけでなく、繁殖率も上がるため、現地コーディネーターのンジョブさんは「今後は養鶏での収益がどんどん上がるはず。」と一安心の様子。

メンバーの一人、ハンプロさんは、「今までは家の外で放し飼いの鶏たちだったけど、これからは小屋の中でどンドン卵を産んで、数を増やしてくれるはず。楽しみだわ〜。」とにっこり。ハンプロさんの夫からも「妻の養鶏事業に力を貸して下さい、ありがとうございます。僕も全力で妻をサポートしていきます。」と心強いメッセージを頂きました。（写真の両端がハンプロさん夫妻）

今年6月にTICOと100万クワチャ（約1万5,000円）のローン契約を結んだ「ミルル」グループのお母さん達。この資金は地鶏の購入と鶏小屋の建設資材の購入費に充てられ、メンバーは1年間でローンを完済する予定です。

ミルルのお母さん達は養鶏での収入と、足りない分は3人でこなしている共同菜

園で作った野菜の収入から、毎月遅れることなく返済しています。

メンバー3人とその夫達は家事の傍らこつこつと鶏小屋の建築を進めていましたが、先日雨期の始まる直前にとうとう念願の鶏小屋が完成しました。鶏小屋の建築にはメンバーの夫達が活躍してくれました。



ザンビアの地鶏

みなさん、こんにちわ。わたくし猫のチャイによる「猫目線」第2回目は、ザンビアの水事情についてお送りいたします。

ご主人によりますと、日本ではどんな場所でも水道からきれいな水が得られるそうですが、ここザンビアでは事情が異なります。首都のルサカや大きな町には水道がありますが、田舎のほうに行きますとほとんどの場所に水道はありません。では住民のみなさんはどこから水を手に入れているのでしょうか？

どうやらみなさん、川や井戸から手に入れているようです。（写真下）

川や浅い井戸の水は、決して綺麗では

ありません。この水が原因で、下痢などの病気になる人々がとっても多いそうです。また、雨が全く降らない乾期になると井戸が干上がってしまう場合もあります。その場合は、長い距離を歩いて重いバケツを担いで帰ってこなければなりません。

ご主人が試しに村のお母さんが運ぶ水



## 猫目線



入りの20Lのバケツを頭に載せてみたところ、1mも歩けなかったと言っておりました。水汲みの仕事は主に女性や子供がしているそうですが、とっても大変な仕事の様です。

日本では当たり前のように得られるきれいで安全な水がこんなに貴重なものか、ここザンビアで日々実感しているご主人たちなのでした。にゃー！

人手不足や高齢化などで放置されたままになっている地元のゆず畑を管理している「わらびの会(美馬市木屋平)」の皆様。ゆずを収穫し、得た収益金をザンビアの活動に役立ててほしいとの思いから、1998年に会を発足。

以来、毎年秋になるとゆず狩りイベントを開催し、収穫して得た収益金を、TICOに寄付していただいています。TICOも毎年このイベントに参加し、収穫をお手伝いしています。

今年は11月13日に行われ、約40人の方にご参加いただきました。



## ゆず湯に浸かって 思うこと

伏見繭子 (国内業務)

私には姉が一人います。よく双子に間違えられるほど似ているらしいのですが、もちろん違うところもたくさんあります。その一つが、私にはお風呂でゆっくりする習慣がないこと。それが、今回収穫したゆずを入れたお風呂に浸かるとその香りがあまりに素敵で、珍しく長湯をしてのぼせてしまいました。自然の香りって、すごい！

ゆず狩りを終えたその晩、お風呂にぶかぶか浮かぶゆずを見ながら、「つながり」について思いました。

まずはザンビアとのつながり。休憩時間

にTICOのこれまでの活動を映像で参加者の皆さんに見ていただいたのですが、ゆずの香りに囲まれて見ていると「このゆずを通してザンビアの人たちと繋がっているんだなあ」と改めて感じました。

次に、活動のつながり。流れている映像を懐かしそうに見るわらびの会の皆さんの笑顔はなんとも言えず素敵で、ずっと続いてきた活動が皆さんの一部となって

いるのが伝わってきました。

そして、人とのつながり。わらびの会代表、地造さんの素敵な一言が今も頭に残っています。それは「こうしてみんなが集まる場所があることが大切」というもの。自分にできることを、人とのつながりの中で続けていく。そうしてそれはいつか波紋のように広がって、色んな人に影響を与えることができる。

ずっとこの活動を続けてきて下さったわらびの会の方々や、参加者の皆さんの気持ちがぎゅっと詰まったゆずが一面に広がったゆず畑の景色は、それを私に教えてくれました。

最後に、わらびの会の方々のパワーと笑いのセンスは素晴らしく、皆さん笑顔が本当に素敵でした！わらびの会の皆さんによって作り出される和やかで楽しい雰囲気の中で、一緒にゆずを収穫したり、お昼ご飯を食べたりするうちに、気が付けばその場にいるみんなが笑顔で打ち解けて、つながっていました。

さて、以下は今回ゆず狩りに参加してくれたアンドリュー君の感想です。

流暢な日本語を話すアンドリュー君は、この春に大学を卒業した後、東北で1か月ボランティア活動に参加し、その後徳島を訪ねてくれました。



▲TICOの活動を映像でご報告。現地からのメッセージや、懐かしい写真も。



「ゆずのとげに刺されるのは痛かったけど、TICOやわらびの会と一緒にゆず狩りをさせてもらって本当に楽しかった。さすがにアメリカではゆず狩りなんてできないから、貴重な経験だったし、徳島に住んでいる方々との触れ合いも楽しかった（食べ物もおいしかったし!）。

面白いと思ったのは、国際的な活動をしているNPOなのに、身近にあるコミュニティともこんなに強い関係を持って一緒に活動しているという点だ。

こういうのは、アメリカではあまりみられないと思う。遠いところの支援をする



だけではなく、周りのコミュニティとも繋がりを持つのは素敵なことだと思った。ゆず狩りで活動報告プレゼンテーションも見せてもらって、わらびの会のメンバーが何人もザンビアに行ったという話も面白かった。

ただ町の中に存在して国際活動をするの



▲ゆずを収穫するアンドリュウ君



ではなく、コミュニティの一部になって、みんなで一緒に何か新しいことを経験して、視野を広げる活動は大切だと思った。」

この活動をずっと続けてくださっているわらびの会の方々、そしてお忙しい中参加して下さった皆様、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いたします。

※ゆず狩りは毎年11月第2日曜日に実施しています。お気軽にご参加下さい！

## 第4回公募合宿開催！



▲にんじんの間引き

▼宇宙ステーション



TICOでは昨年から個人でも参加できる公募型の合宿を開催しています。第4回となる今回の合宿は10月8日～10日にかけて実施。徳島、大阪、そして東京から8名の方にご参加いただきました。

以下、参加者の方々の感想を紹介させていただきます。

“きれいな環境にやさしいところで、たくさんのことを学べてよい機会でした。自分にもできることから始めます。”

”世界だけでなく日本のことについても考えさせられました。これからはまず日本のことを知ったうえで世界にも目をむけていこうと思いました。貴重なお話や体験、本当にありがとうございました。”

“国際協力に携わりたいという気持ちがさらに強くなりましたが、もっと国内にも目を向けていきたいと思いました。自分のできることから始めていきたいです。ここでの経験を忘れずに、頑張っていきたいです。”

次回の公募合宿は7月の3連休に実施する予定です。ぜひご参加下さい！もちろんサークルなど団体単位での実施も大歓迎です。お気軽にお問い合わせ下さい。

### 合宿のスケジュール

--1日目--

アイスブレイク～TICO活動紹介～世界がもし100人の村だったら～チャレンジ・アフリカ

--2日目--

農作業～地球人カレッジ「薬草せっけんづくり」～「大豆のこと、知っとう?～大豆から日本社会を考える～」～TICO代表 吉田修による講義～懇親会

--3日目--

農作業～宇宙ステーション～まとめ  
※希望者はさくら診療所見学も可能。



▲「大豆のこと知っとう?」ワークショップ

## 事務局長 福士庸二のつぶやき

## 『あー、もったいない』

ごみ収集所に、型は古いブランド物のスポーツ自転車が捨てられていた。傷みは少なく、磨き直して、パーツを付け替えれば、最新型にも負けない立派なロードバイクに蘇るはず。

自転車乗りの私は、しばし竹み周囲に誰もいなければなどと、邪なことを考えていた。

「今ある『もの』を大切に守り、よりよい『もの』へと育てて行く」こうした文化は、我々日本人の誇る『MOTTAINAI (勿体無い)』精神にほかならない。先日亡くなった、ケニアのノーベル平和賞受賞者で、環境保護活動家のワンガリ・マータイさんは、「MOTTAINAI」を環境を守る共通語として、世界に発信した。その心に世界中の多くの人々が共感し、今なお受け継がれている。

『勿体無い』といった日本語が死語とならないことを願いたい。

翌朝、もう一度見に行ったら自転車は……。 (ご想像にお任せする。)



▲「モッタイナイ」キャンペーンサイト リンクバナー

## ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

### 寄付をいただいた方(書き損じはがき等含む)

今心(株)、みづほメディカル(株)、馬場節子、トエエモン、河合純子、さくら診療所募金箱、K's Pet Clinic、原田恵子、上原正敏、峰尾武、秋月良子、田淵千夏、土江文枝、佐藤文子、田淵規子、羽里ヨシミ、秋月良子、寒川和子、TICOサポートクラブ、合同会社PlanB、吉田修、匿名3

### 新たに入会された方

大塚和子、合同会社PlanB、伏見蘭子

書き損じはがきを集めています。

### 会員を更新された方

ホウエツ病院 林秀樹、井口千陽、神園索己、大多和通夫、黒岩宙司、山岡智互、遠藤千鶴、久保真一・恵子、松田恵美子、大塚内科、中谷加奈子、池見真由、篠原幸隆、神谷保彦、凌秦君、佐藤知里、山元博子、河村、木本豪、徳島県医師会、森久美子、山崎順子、阿佐哲也、大室直子、渡部豪・あかり、匿名1

●2011年10月1日～2011年12月8日分

●順不同、敬称略

●東北被災地支援へご協力いただいた方のお名前掲載は控えさせていただいております。なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

### TICOへのご寄付の方法

**郵便振替** — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

**銀行振込** — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、(トクヒ) テイコ

**募金箱** — さくら診療所 (徳島県吉野川市) に常設しています。

**インターネット** — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからご購入物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

## TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

### 年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

### TICOニュースレター Face to Face 第28号

2012年1月発行 発行人：吉田 修

編集：瀬戸口 千佳

### 特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話/ファクス：0883-42-2271

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：www.tico.or.jp